

ヨコヤマナガハル 横山長治 横山長知の

三子。通稱式部。慶長十年伯父横山因幡長秀の後を受けて、遺知のうち五千石を襲いたが、十九年長知と共に一たび仕を辭して藩を去り、同年復歸、大坂兩役に従ひ、その後役には城中に侵入して猩々緋羽織の敵首を獲た。元和五年前田利常の近習十兵衛なる者を成敗すべき命を得て之を仕途げ、六年祿五千石を加恩せられて合計一萬石を食み、次いで神谷信濃守守孝の婿となり、又命に因りて神谷氏を稱し、御家老に任ぜられて、寛永二十年六月廿三日（一作五月三日）四十七歳を以て歿した。子式部長昌（初め神谷丹波）遺知を襲ぐの際、折紙に横山式部と記されたるを以て、また横山氏に復し、弟大藏隆正を神谷丹波たらしめたが、この統は絶えた。

ヨコヤマナガヒテ 横山長秀 小字三四郎、後に右京亮・因幡と稱した。半喜長隆の長子。初め美濃の丸毛不心の義子となつたことがある。天正十二年前田利長に仕へ、翌十三年四月河北郡鳥越の役に従軍し、先登の功によつて祿三百石を賜はり、後漸次増して九千二百五十石を受け、慶長中利常に隸して小松に住み、次いで八年大聖寺城代に轉じ、十年十一月歿した。法號彭山長壽居士。

ヨコヤマハルヒラ 横山玄位 加賀藩の老臣横山氏第四代。忠次の二男。明暦元年出生、母は備前日置猪右衛門の女。幼名三郎、後大膳。初諱忠義又は忠照。延寶七年十月父忠次遺知之内二萬六千石（内四千石典力知）を受け、天和元年改作法施行に依り出分四千石を加へて三萬石を領したが、病に依つて京都に赴き、同年六月十六日その地に歿した。享年

廿七。法名通明院月窟道輝居士。

ヨコヤマサカズ 横山政和 通稱政次郎、藏人・多門。字は敬夫。關州はその號。父は政孝、母は關崎。天保五年を以て生まれ、三歳にして父を喪ひ、十五歳世祿一萬石（内二千石典力知・千石同心知）を領し、二十歳藩の家老となり、後に小松城代を兼ねた。次いで明治元年執政に擢でられ、同職本多政均と力を協せて藩制を整革したが、二年政均の卒後政和専ら事に當り、尋いで金澤藩大參事に任ぜられ、廢藩に至つて罷められた。後神道教導職に補し、又氣多神社宮司に任ぜられ、晚年白山比咩神社宮司となり、明治廿六年六十歳にして歿した。政和至誠忠直、學を好み吟詠を善くし、又本草を究め、花卉を栽え、金石を集めて自ら娛み、老後白山祠頭山秀水明の境に家を築いて悠々日を送つた。その著す所、環水樓詩稿十四卷、文章・國雅各若干卷、長瀨異動見聞録・京都守衛雜記・京都守衛諸事覺書等がある。

ヨコヤマサカタ 横山政賢 横山外記昌行の義子。實は山崎縫殿の三男。通稱又五郎。明和二年昌行の遺跡を繼ぎ、祿三千五百石を賜はり、八年算用場奉行、安永六年寺社奉行・公事場奉行兼勤、七年四月若年寄役、寛政九年十月家老役・若年寄兼勤、加判となつたが、文化四年正月致仕して隱居料七百石を賜はつた。後名を伴隨と稱し、六年九月九日歿した。時に七十二歳。

ヨコヤマサタカ 横山政孝 一諱孝誼。字は誼夫、致堂と號する。通稱小五郎・多門。藏人。享和元年父政寛の後を襲いたが、幼なるを以て半知を受け、成長して世祿一萬石（内

二千石典力知、千石同心知）を領した。政孝江都に于役すること前後六たび、前田齊泰の世子たりし時その傳となり、天保七年正月歿した。年四十九。政孝最も易を好み、亦詩を善くしたが、その集中蓮湖に遊ぶの詩多きを以て、永根伍石嘗て蓮湖長の印を刻して之を贈つた。因りて自ら蓮湖長翁と號し、晩年喜んでその印を用ひた。又畫を善くし、好みて花卉を描いた。政孝の詩集を致堂詩藁・致堂詩藁外編といふ。其の他詩律證・詩餘小譜・海棠園合集・自得論の著がある。その妻關蝶・後妻關崎共に詩を能くした。

ヨコヤマサノリ 横山政禮 通稱平十郎、多宮。諱は隆明又は正迪、字は子慎、東臯と號し、樓を絳霞、亭を坐嘯といふ。横山大和守貴林の四男であつたが、同姓藏人正從の養嗣子となり、寶曆十年家祿一萬石（内二千石典力知・千石同心知）を襲ぎ、天明三年正月三日四十二歳で歿した。その詩集に東臯初稿二卷がある。

ヨコヤマサヒロ 横山政寛 政禮の子。通稱多門・藏人。政禮の歿する時幼にして祿三の一を受け、天明四年世祿一萬石（内二千石典力知・千石同心知）を領し、寛政五年家老となり、享和元年正月廿五日三十二歳で歿した。政寛字は子純、白華と號し、富田景周に詩を學んで奇才があつた。

ヨコヤマサフサ 横山正房 横山長治の四子。通稱志摩・筑後。父の配分知五百石を

受け、前田綱紀に重用せられて遂に一萬石に至つた。その職は萬治二年御中小將御番頭、寛文三年御中小將頭、延寶二年若年寄、貞享三年御家老役に歴任し、元祿六年六月晦日歿した。子孫正武・正從・政禮・政寛・政孝嗣ぎ、世々一萬石を領して家老の家柄であつた。

ヨコヤマモリチカ 横山守知 通稱右近。一諱重治。長知の六男。正保三年長知老後の祿六千石を配分せられ、人持組に列し、萬治元年寺社奉行に任ぜられ、延寶四年頓死。齡五十。男子皆夭逝して家斷絶した。

ヨコヤマスハル 横山康玄 長知の嫡子。小字三郎、後大膳。天正十八年越中守山に生まれ、八歳の時初めて前田利長に謁し、十五歳にしてその小姓となつて祿千石を受けた。慶長十九年長知の藩を去るや之に従ひ、その歸つた時亦來仕して直に大坂冬役に従ひ、元和の再役には岡山口に於いて敵將四宮五右衛門を獲、翌年家老に列し、祿四千石を増し、寛永八年前田利常の幕府から嫌疑を得た時、爲に登營分疏したる功により又四千石を加へ前後九千石（内二千石典力知）に至り、正保二年九月十八日父に先だつて歿したから世代に加はらぬ。享年五十六。法號桂岸院月浦宗林居士。

ヨコヤマシロカシブコウシヨ 横山城家士武功書 一冊。横山氏家士の各武功を書出した申状を集め、末に新座の侍・小姓・留守居之者・弓之者・鐵炮之者の姓名を記し、最後に『合四百二十八人以上元和二年二月十七日横山山城守』とある。山城守は長知である。

ヨコヤマランエン 横山蘭庵 名は榮、號は蘭庵、所居を靜好閣といふ。藩の老臣横

は蘭庵、所居を靜好閣といふ。藩の老臣横

は蘭庵、所居を靜好閣といふ。藩の老臣横

は蘭庵、所居を靜好閣といふ。藩の老臣横

は蘭庵、所居を靜好閣といふ。藩の老臣横

は蘭庵、所居を靜好閣といふ。藩の老臣横